

令和 7 年度学校評価報告書

学校名	吉川市立北谷小学校
校長名	田中 裕史

学校運営協議会 会 長 豊田 正一

学校関係者評価シートについて

- 自己評価の欄については、左下の基準により教職員が自己評価した結果の平均値です。

4	高いレベルできている。	(8割以上の達成状況である。)
3	概ね基準に達している。	(6割以上8割未満の達成状況である。)
2	基準には達していない。	(2割以上6割未満の達成状況である。)
1	ほとんどできていない。	(2割未満の達成状況である。)

- 各項目の内、「児童生徒は・・・」、「学校は・・・」で始まる質問については、児童生徒や学校全般を振り返り総合的に評価しています。
- 「教職員は・・・」で始まる質問については、自分自身を振り返って評価しています。

評価項目「組織運営」

N0.	質 問 項 目	自 己 評 価	学校 関係 者 評価	自己評価・学校関係者評価についての評価の説明及び学校の 考え	学校運営協議会委員からの意見等
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	3.7	3.9	「たくましく生きる力」を全ての教育活動で高めるという重点目標を明確に定め、組織的に学校の教育課題に沿った取り組みを実践できた。	○吉川市をよく知る校長先生の着任で職員・児童さんも徐々に地域の学校としての北谷小という意識が育っている。 ○校長・教頭一丸になって取り組んでいる姿が見えてくる。 ○目標設定、計画、朝活動、トラブル対応において、よく行っていると感じる。 ○児童一人一人の個性を捕まえた上で、全ての児童に対し臨まれていることに感銘を受けた。 ○学校としての目標が全体に周知されることは重要なことだと思う。 ○教科担当ごとの指導に賛同する。継続して欲しい。 ○各学年クラスの掲示物からも児童の成長を見ることができる。 ○全員平等に掲示してあげたいとの思いは感じるが、掲示物が多すぎるのではないかと感じる。 ○子供たちの安全、そしていじめ等が起こらないようにお願いしたい。
2	教職員は PDCA サイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたっている。	3.6	3.7	国語の授業研究を中心に指導方法の改善に努めた。今年度は「書く力」の向上に取り組み、きたやタイムでは「短作文」に繰り返し取り組んだ。学級経営にも力を入れており、推進会議や学年会を設け、児童理解・指導方針の共有に努めている。	
3	学校は事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.7	3.9	危機管理やいじめ防止、盗撮防止等の各種マニュアルを見直し、全教職員で共通理解を図った。危機管理マニュアルはすべての教室に掲示し、万が一の場合に備えている。報告・連絡・相談体制をしっかりと構築し、迅速かつ組織的に生徒指導問題等に対応できるよう心掛けた。	
4	学校は清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	3.0	3.4	全校で無言清掃に力を入れ取り組んだ。全体として清掃美化への意識の高まりは感じられるが、個人差が大きい点や指導方法に差異がある点等、徹底できていない部分があったことが課題となった。再度共通理解を図り、全校で共通行動できるようにしていく。教室掲示物について、前方の掲示内容について見直していく。	
5	学校は小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	3.5	3.6	小中での相互授業参観や合同研修会により、小中の課題を共有しながら共通の課題について取り組むことができた。互いにメリットとなる児童と生徒の交流を工夫していくことが今後の課題となる。	

評価項目「保護者・地域との連携協力」

N0.	質 問 項 目	自 己 評 価	学校 関係 者 評価	自己評価・学校関係者評価についての評価の説明及び学校の 考え	学校運営協議会委員からの意見等
6	教職員は PTA 活動や地域の活動に積極的に協力し、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	3.4	3.8	教職員は、PTA 主催の北谷小フェスティバルやおやじ会パパス主催の体験活動、市民体育祭の事前準備に協力し、当日も自主的に参加していた。毎月の読み聞かせや田植え・稲刈り体験、なまず学習、町たんけん等、地域の教育力を借りて意欲・関心を高める学習活動を実施できた。	○学校だよりを読むたびに学校が進んでいく姿が見えている。地域の人達や保護者の協力により学校の状況が見える。 ○学校だよりを拝見すると学校のきめ細かい対応が大変よく見られる。 ○ホームページや Home&School を通しての情報配信に感謝している。

7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	3.9	3.9	学校ホームページでは、教育活動の様子、学校運営の状況、学校行事の成果等を毎日更新して積極的に配信した。学校だよりでは、教育活動に関する予定や児童の様子等を保護者、地域に発信し情報提供できた。	○働き方改革を推し進める中で、保護者、地域、学校の連携活動に力を注ぐことは難しさがあると思う。 ○本当に素晴らしい情報提供活動だと思う。保護者の方々に 100%読んで貰いたい。
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	3.2	3.6	学校の教育活動は地域の方々の支えによって活動できている。4年生で実施した命の授業では、保護者が所属する NPO 法人の協力を得て実施した。また、登下校の安全についても保護者、地域の方々の見守りがあって実現できている。今後も保護者と地域、学校が連携した教育活動を推進していく。	

評価項目 「学力」

N0.	質 問 項 目	自己評価	学校関係者評価	自己評価・学校関係者評価についての評価の説明及び学校の考え	学校運営協議会委員からの意見等
9	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	2.9	3.3	全体的に落ち着いて学習に取り組んでいるが、各学級に在籍している配慮を要する児童の対応に苦慮している実態もある。教職員は個々の現状に合わせて課題提示やプリントを工夫し、個別対応を継続している。児童理解を深め、学習意欲を高められるよう一層組織的な対応を図っていく。	○親の手から離れ、小学校に入学し、その初々しい子達が5年生・6年生になり卒業、その成長ぶりは驚きで思わず顔がほころぶ。 ○授業参観時に見られた ICT を活用した授業は大変良いと思う。 ○ICT を活用した授業を行うために先生の事前準備が大変だと思う。 ○授業の様子を見ると児童が積極的に発表している姿が見える。 ○児童の学力に応じた授業展開の工夫について、よく行っていると感じる。 ○概ね落ち着いて学習に取り組む姿勢が見られていた。一部の児童については課題が大きいケースも見られたが、個人の要因も大きい。集団で落ち着かない。授業への意欲の維持が難しいケースについては教員の指導も難しさがあると思う。現任の指導問題だけでなく、前年、前々年の指導方針がどうだったか、縦断的に検討していく必要があると思う。 ○英会話の授業があるとよい。 ○一部の児童によって授業が妨げられているというコメントが気になる。今後の指導に期待する。
10	教職員は学力向上を目指し、PDCA サイクルのもと、児童生徒の実態に基づいた授業改善に努めている。	3.6	3.5	業前にきたやタイムを設け、「書く力」「数の感覚・計算」の向上に取り組んだ。作文への抵抗感の軽減、計算速度の向上が図られ、自信をつけ達成感を感じさせることができた。また、国語科を中心に授業研究会を実施し、研究協議を繰り返すことで、日々の授業改善に努めた。算数科においては、T.T 指導や少人数指導、能力別少人数指導と学習形態の工夫や見通しをもたせ意欲を高める工夫等を行っている。	
11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	3.3	3.6	ICT 活用のための研修を実施し、教科指導に効果的な活用方法を学んだ。視覚情報で理解できる児童も多いことから、積極的に授業での活用を図っている。タイピングやプログラミングにも取り組み、児童の活用能力も向上している。	
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	3.4	3.6	南中で実施している2分前着席や机上の整理、話を聞く姿勢に継続して取り組み、学習環境を整えた。筆箱の中身について、共通理解のもと指導しているが、徹底が図れなかった一面もある。生徒指導会議にて課題の共有が図れたので、全校で統一した指導日を設けたり、日常的に全教職員で繰り返し声をかけたりすることで更なる改善を図っていく。	

評価項目 「規律ある態度」

N0.	質 問 項 目	自己評価	学校関係者評価	自己評価・学校関係者評価についての評価の説明及び学校の考え	学校運営協議会委員からの意見等
13	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをすることができる。	2.5	2.9	毎日の教職員によるあいさつ運動に加え、児童中心のあいさつ運動を実施し、毎日元気な声が響いている。地域でも以前に比べあいさつできる児童が増えていると聞き、少しずつではあるが改善が見られている。一方で、言葉遣いには一部の児童に課題が残り、数値を下げた。また、指導する際の教職員の言葉遣いを危惧する意見もあった。教職員自らが手本を示すことで言語環境を整え、あいさつ、言葉遣い全般の改善に全校で取り組んでいく。	○子供達は、登校・下校時に声をかけると大きな声で元気よくあいさつを返してくれる。 ○多くの児童が自ら快くあいさつをしている。 ○先生達がきめ細かく児童に寄り添って指導されている。 ○立哨をしていて朝のあいさつはどうしてもばらつきがあって3～4割くらい。 ○あいさつ、言葉遣い、持ち物のルールについて学校が課題を挙げている。児童に置いては課題の有無に個人差があると思うので、課題を検証し、全体で良い雰囲気になるよう取り組んでいただきたい。
14	児童生徒は、学習のルールや生活のきまり・時間を守ることができる。	3.0	3.2	生徒指導の基本を「時を守り、場を清め、礼を正す」として、2分前着席や無言清掃、あいさつの励行に取り組んだ。また、定期的に「北谷小よい子の約束」や公園での遊び方を振り返り、ルールを守る大切さを指導した。課題のある児童はいるものの、全体的にトラブルが減っている。	

15	児童生徒はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って、学校生活を送っている。	3.1	3.2	全教職員が参加して児童理解会議を実施し、実態把握と共通理解、指導方針の共有を図り、いじめの初期対応、組織的対応を徹底した。学級では、学級活動での話し合い、クラスレクの実施、係活動、帰りの会での互いのよい所を認め合うコーナーの取り組み等により、学級所属感や自己肯定感、自己有用感を高めた。	○教職員の言葉遣いは改善が必要な先生もいる。大きな声で厳しい言葉で指導すると児童は大人しくなり、一瞬行動統制が取れたように思うかもしれないが、児童の本質を教育していくこととは異なると感じる。
16	教職員は自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	3.5	3.3	教職員は進んであいさつし、児童理解に努め、児童の気持ちに寄り添って一人一人に合わせた指導を行っている。目の前の児童に対して真摯に正面から向き合い、本音で心に語る姿は、「模範の大人像」になっている。しかし、一部対応について不十分だったり、理解を得られていなかったりする面もあり、保護者への説明を丁寧に行う必要がある。	

評価項目 「健康・体力」					
N0.	質 問 項 目	自己評価	学校関係者評価	自己評価・学校関係者評価についての評価の説明及び学校の考え	学校運営協議会委員からの意見等
17	児童生徒は、体力向上に向け、体育の授業や部活動または外遊びに意欲的に取り組んでいる。	3.4	3.8	毎週水曜日にきたやタイム（運動）を設け、マラソンや縄跳び取り組んだ。真剣な児童の姿が多く見られ、運動機会の確保に大いに役立った。外遊びが好きな児童が多い一方で、苦手な児童もおり、二極化の傾向がある。熱中症予防のため外で活動できない場面も多かった。空調設備が整った体育館での体育授業を活用し、運動量の確保に努め、体力向上の取り組みを継続していく。	○きたやタイムはよいと思う。 ○きたやタイムでの走る取組、食への関心を高める取組において、よく行っていると感じる。 ○校外の公園での子供達の様子も注意しながら観ている。 ○体力向上、食育については、引き続き指導をお願いしたい。 ○暑い中での指導に感謝する。今後こうした暑い中で暮らしていくために、心身ともに今までとは違った鍛えが必要になるのではないかな。
18	学校は、児童生徒の健康管理および食育に関する意識を高めようとしている。	3.5	3.8	年に3回元気カード（睡眠・排便・栄養）を配付し、生活習慣の改善に取り組んだ。長期休み後に実施することで学校生活のリズムを取り戻すことにも役立った。「なまず教室」を実施したり、稲刈り体験で収穫したお米を家庭科の調理実習で炊き、実食したりした。食育とともに郷土愛も育成した。	

評価項目 「生徒指導・教育相談」					
N0.	質 問 項 目	自己評価	学校関係者評価	自己評価・学校関係者評価についての評価の説明及び学校の考え	学校運営協議会委員からの意見等
19	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切にし、児童生徒に寄り添った対応をしている。	3.6	3.9	教職員は児童に寄り添い、話を聞いて児童がよい方向に向かえるように後押ししている。一方的に話すのではなく、よく聞き取りをし、納得がいくまで話し合いをしている。児童理解会議や生徒指導会議、教育相談会議を通し、共通理解、共通行動を図った。「報告・連絡・相談」を徹底することで、初期対応を組織的に行うことができた。その結果生徒指導問題の件数が減少した。	○授業での児童の発言に対して大切にして補足説明をしていた。 ○聞き取り話し合う対応、綿密な連絡と登校支援をよく行っていると感じる。 ○児童を大切にしている姿勢を感じる。 ○不登校児童に対して、地域住民や民生委員と協力し、学校と連携して見守りをしている。
20	学校はいじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	3.6	3.9	いじめ防止等のための基本的な方針に沿って、一人一台端末を利用した「心音」の活用、毎月のなかよしアンケートや花の子相談の実施により、児童・保護者の思いを受け取り、早期に解決することができた。不登校対応としては、学校との繋がりを切らせず太くすることを目指し、別室登校やオンライン授業、放課後登校など、児童の心に寄り添った提案を続け、解消したケースが複数あった。	○保護者・PTA・学校間の息の長い意志疎通と一貫した行動を感じる。 ○いじめや不登校の問題はなかなか表に上がってこないため、学校の対応を目にすることが少ない。しかし、多くの先生が児童の立場に立った理解ある対応をとろうとしていることは感じる。

総合所見	<p>学校教育目標の具現化に向け、「笑顔と絆で たくましく生きる力を育てる 北谷小学校」を目指す学校像として、魅力的な授業をつくる「情熱」と、一人一人の個性を大切にする「愛情」で子供を伸ばすことを目指した。体験活動を大切に学校行事等、心に残る教育活動を実践し、非認知能力「たくましく生きる力（やりぬく力・おちつく力・つながる力）」の伸長を図ってきた。教職員が参画意識をもち、共通理解、共通行動を実践することで、組織的な取り組みに結びついている。</p> <p>学習指導においては、きたやタイムを設け、児童の思考力・表現力の基礎となる「書く力」の向上、計算の基礎となる「数の感覚」や「数の処理」の向上を目指し、年間を通して全校で取り組んできた。また、研修課題として国語科の学力「読む力・書く力」を伸ばす授業改善に取り組むことで、国語だけでなく他教科の学力の底上げを図ってきた。12月に実施した学力検査では、全国平均を下回っているものの、昨年度の結果より伸びている学年が多かった。令和8年度は苦手意識を強く感じている児童が多い算数の研修を進めていく予定である。教職員が児童の論理的思考を引き出せるよう授業力向上を目指していく。</p> <p>ICTの活用については、課題提示や話し合い活動の場で効果的に活用し、学習内容に関心をもたせたり、互いの考えを伝えあう場面を</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>増やしたりし、児童が意欲的に活動できる工夫を行っている。ICT 支援員を活用し助言を受けたり、研修会を定期的に関き教職員の技能向上を図ったりしながら、教育の質の向上に繋げられるよう継続して取り組んでいく。</p> <p>保護者・地域との連携においては、登下校の見守りや校外学習見守りボランティア、図書館サポート、読み聞かせ、町たんけん、田植え・稲刈り体験、飯ごう炊さん、宿泊体験、命の授業、北谷小フェスティバル等、様々な活動にお力添えいただき、児童の体験学習を充実させることができた。次年度も保護者・地域・学校の三者の連携を強め、児童の学習意欲を高め、学習理解を深める体験活動を充実させていく。</p> <p>毎日の立哨指導や児童によるあいさつ運動を行い、あいさつできる児童の育成に励んだ。少しずつではあるが、あいさつする児童が増えてきたと実感している。今後も取り組みを継続し、家庭・地域と協働して心を開くことができる関係性や地域性を醸成し、あいさつの輪を広げていきたい。</p> <p>毎日の心の健康観察「心音」や「なかよしアンケート」を実施し、実態把握や早期対応により、いじめ防止、早期解決を行うことができた。また、花の子相談で保護者の悩みを共有し、あおぞら相談員やスクールカウンセラーと連動して問題解決に努めた。いつでも相談できる環境作りを大切にし、相手意識を高める指導を継続していく。不登校傾向のある児童は少なくない。それでも保護者と連絡をとり、登校方法の工夫をすることで、欠席数を減らし、学習機会や学校・人との繋がり確保を実現してきた。一人一人の心に寄り添った対応を継続していく。</p> <p>児童を中心に据えた教育活動を推進し、よさを伸ばす指導を行い、児童・保護者・地域・教職員が誇れる学校づくりに邁進していく。</p>
成果と課題等	<p>成果</p> <p>(1) 校長を中心とした、教職員の組織力の向上</p> <p>(2) 児童の心に寄り添った生徒指導・教育相談の充実と保護者、関係機関との連携強化</p> <p>(3) 児童の意欲を引き出す授業展開の工夫</p> <p>(4) 保護者・地域・学校との連携による体験活動の充実</p> <p>課題</p> <p>(5) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善と学力向上</p> <p>(6) 相手意識を高め、豊かな心の醸成に繋げる学級経営の実践と組織的な生徒指導</p> <p>(7) 体育授業の充実と外遊びの奨励、家庭と連携した運動習慣の定着による体力向上</p> <p>(8) 家庭・地域との連携による児童の健やかな成長への支援</p>